石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

最新の情報は大学HPで⇩

理工・鈴木研究室　大漁まつりに出展

理工学部生物科学科の鈴木英勝研究室が第37回いしのまき大漁まつりにブースを出展し、「海洋資源の持続可能な活用」をテーマに研究紹介を行った。

10月18日に石巻魚市場で開かれた同イベントは、石巻の新鮮な魚介類や水産加工品の魅力を発信するお祭りで、当日は約6万2000人の人出でにぎわった。

鈴木研究室のブースでは、学生たちが骨格標本やパネル展示を用いて、深海魚や低利用魚について説明した。低・未利用魚であるカナガシラを原料とした「プロテインみそ汁」の試飲も行い、地域の方々との交流を楽しんだ。深海魚、未利用魚、寄生虫にちなんだ加工品などが当たるガシャポン企画も、子どもたちの人気を集めていた。

みそ汁の試飲を担当した淀川倖さん（4年次・福島県松韻学園福島高）は、「簡潔で分かりやすい説明を心がけた。なじみの薄い未利用魚に興味を持ってもらえたときは、やりがいを感じた」と語った。

2027年4月には生物科学科に生物資源コースが誕生し、地域と連携した研究活動を推進していく。鈴木研究室も成果を地域に還元することで持続可能な社会の実現に向けて貢献していく。

出展した鈴木研究室のメンバー



シドニーマラソンで快走

女子競走部

小野寺 美麗さん

初のフルマラソンで日本人女子2位

約3万6000人が参加した南半球最大規模のマラソン大会「シドニーマラソン」（8月30日、オーストラリア）に、女子競走部の小野寺美麗さん（経営4・山形県東北文教大学山形城北高）が出場した。初のフルマラソンながら2時間50分49秒の好タイムで完走。日本人女子選手で2位、18～24歳の全女子選手で4位と素晴らしい走りをみせた。初の海外レースを終えた小野寺さんに話を聞いた。



Q.大会に向けてどんな準備をしたか？

4月のかすみがうらマラソン10㌔女子の部で優勝し、出場権を獲得しました。初めて挑むフルマラソン。42・195㌔を完走できるか、不安もありました。そのためレースの2週間前には北海道で合宿を行い、泉田利治監督の指導のもと、1日約50㌔を走り込むなどスタミナ強化に重点を置いたトレーニングに取り組みました。



快走する小野寺さん

Q.レースを振り返って

自分の走りがどこまで通用するのか挑戦したいという気持ちでスタートラインに立ちました。レース中は気負うことなく、シドニーの美しい景色や沿道の温かい声援を楽しみながら走ることができました。そうした気持ちの余裕が好タイムにつながったのだと思います。応援してくれた家族や監督、仲間たちにはとても感謝しています。

Q.今後の競技生活は？

初のフルマラソン、そして初の海外レースに挑戦したことで、これまでのレースでは得られなかった貴重な経験を積むことができました。この経験を、今後のレースにも生かし、さらなる好成績につなげていきたいと思います。

10年間続けてきた陸上競技は、自分にとってかけがえのないものです。卒業後も競技を続けていくつもりです。これからも自分なりの目標を掲げ、一歩ずつ着実に成長していけるように頑張ります。

paizaランクチャレンジ

鈴木さん・高橋さんを表彰

4月8日から約4カ月間にわたり実施された「2026年度paizaランクチャレンジ」で、理工学部情報電子工学科の鈴木鴻さん（4年次・高卒認定試験）がランク賞、高橋悠太さん（1年次・岩手県盛岡商業高）がトロフィー賞を受賞した。

情報電子工学科では、学生が専門的な知識や技術を身につけられるよう、さまざまな教育活動を推進している。今回の企画は、プログラミング学習サービスを提供するpaiza株式会社による、本学学生を対象とした応援企画。スキルチェックにより、プログラミング能力を6段階評価する仕組みで、学生は自分の力を確認しながら、段階的に上のレベルを目指すことができる。

ランク賞はチャレンジ終了時点の上位者を表彰するもので、Cランク以上が対象。トロフィー賞はスキルチェックの問題に取り組み、正解数が多い学生に贈られる。

10月6日に表彰式が行われ、日ごろから意欲的にプログラミング学習に励んだ鈴木さんと高橋さんに賞状が授与された。



鈴木さん（右）と高橋さん

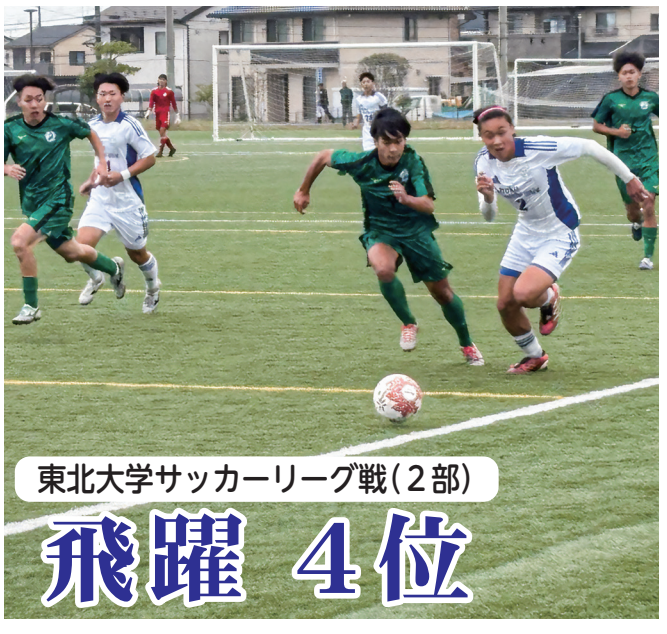
理工・久米准教授　共著に論文賞

日本魚類学会

理工学部生物科学科の久米学准教授と、世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ（岐阜県各務原市）の池谷幸樹館長による共著論文「Thirteen-year monitoring reveals that Mekong giant catfish (*Pangasianodon gigas*) has an annual feeding rhythm and a prolonged fasting period」が2026年度日本魚類学会の論文賞を受賞した。

本研究では、飼育環境が安定した水槽において、メコンオオナマズ（*Pangasianodon gigas*）の摂餌量を13年間にわたり毎日モニタリング。摂餌周期と絶食行動を分析した結果、約1年にもおよぶ長期の絶食状態に耐える生理的能力を有していることを明らかにした。

世界最大級の純淡水魚として知られるメコンオオナマズの生態は未だ十分に解明されていない。今回の成果は、水族館の日々の行動観察が魚類の生態解明につながることを示す大変貴重なものである。



東北大学サッカーリーグ戦（2部）
飛躍 4位

東北大学サッカーリーグ戦（2部）の全日程が終了した。本学サッカー部は2024年に創部。リーグ参戦2年目となった今シーズンは、8勝3敗1分けの勝ち点25で4位となった。1部との入れ替え戦進出はならなかったが、大きな飛躍を遂げた。

まちなか通信

キャンパスにすむ昆虫紹介
分布マップや写真展示

大学・学生と市民をつなぐ学外施設「まちなか交流拠点」を開設するなど、本学は大学の研究活動の発信、地域住民と学生による協働に力を入れている。文系・理系双方の学びを生かした多彩な活動を紹介する。

石巻自然文化研究会主催の「石巻昆虫レンジャー展示発表会2026」が9月26、27の両日、石巻市かわまち交流センター（かわべい）で開かれた。石巻地域で採集された昆虫の標本などを楽しめる人気イベントで、今年初めて本学の生物愛好会も参加。キャンパス内に生息する虫の分布マップや生態写真を紹介し、来場者との交流を楽しんだ。

愛好会が約1年間の調査で見つけたのは、昆虫だけで682種。クモやダンゴムシなど昆虫以外も含めると計730種にも及んだ。展示を見学した昆虫好きの子どもたちからは、「大学の敷地内にこれだけ多様な生物がいるのが面白い」といった感想が聞かれた。

「環境によってすむ場所を変えたり、捕食者に見つからないように擬態したりするなど、生き抜くための適応力を備えている点が虫の魅力」と語るのは、理工学部生物科学科2年次の北田楓華さん（鹿島朝日高）。同1年次の大槻美果さん（宮城県角田高）は、「今後は野鳥マップづくりにもチャレンジしたい」と展望を語った。



写真提供＝三陸河北新報社（石巻かほく）

生物愛好会

1年次生から大学院生まで約50人が所属し、「水圏班」「昆虫班」に分かれて活動中。大学敷地内での調査のほか、石巻市北上地区で実施の「平地の杜づくりプロジェクト」にも参加。石巻地方の生物相を記録している。